

《巻頭言》

震災を乗り越える－総会へのご案内ふたたび

山本蒔子

第6回日本禁煙学会学術総会 会長

はじめに

今年の初めに期待を膨らませて、第6回日本禁煙学会学術総会を10月に仙台にて開催することを巻頭言に書かせて頂きました。

しかし、思いもよらぬ3.11東日本大震災が発生してしまいました。仙台市沿岸部では、おびただしい人命が失われ、建物や職場あるいは地域のコミュニティーごとの流失が起り、空港などの社会資本の深刻な被害を目の当たりにしました。仙台市中心部では、人的被害こそ少なかったものの、4月7日の大きな余震とあわせ、建物被害および物的被害が甚大であり、学校、公共施設、庁舎等に影響が出ました。東北新幹線は50日間運転できず、現在も臨時のダイヤで、以前のようなスピードでは走っていません。仙台駅、駅周辺のペDESTリアンデッキやバスプールの階段なども損傷しました。また、市内のほとんどのホテルは、設備の損傷により閉鎖されました。

総会中止を決定

大震災後の3月24日に、NPO法人禁煙みやぎは臨時理事会を開き、10月1日、2日に予定していた第6回日本禁煙学会学術総会は中止せざるを得ないとの結論に達しました。その理由は、予定していた学会会場の建物内部の被害が大きく、復旧にかなりの期間を要し見込みが立たないこと、また、他の代替会場を確保することが難しいこと、職場や自宅の被害のため会員自身の安全が不安な状況で回復の見込みが立ちにくいこと、震災直後における企業協賛への依頼は極めて難しいこと、会員の多くは医療的な面で悲惨な被災状況に直面しており、その中で学会準備実務を進めるには困難が予想されること、などです。医学情報大学病院医療情報ネットワーク(UMIN)のサービスを利用した演題登録は5月1日には開始する予定になっていて、期限が差し迫っていることも考慮さ

れました。

来年4月開催決定までの経緯

会員の気持ちとしては、これまでの準備や仙台で開催する意義を考えると、中止はいかにも残念です。仙台開催の来年への延期をお願いしたいと思いましたが、それはかなわない状況でした。しかし、作田理事長からは日本禁煙学会が設立された年には1年に2回の学術総会を開いたこともあり、今回は災害による延期であるので、1年に2回の開催でもかまわないとお話を頂きました。会場の仙台国際センターの空き状況を調べ、2012年4月7日(土)、8日(日)に第6回日本禁煙学会学術総会を延期して開催することを禁煙みやぎの理事会で決定し、日本禁煙学会の理事会においても承認を頂きました。

学会会場に予定していた仙台国際センターでは、大ホールの被害は少ないのですが、ポスター会場として使用予定の会場などが被災して、現在でも使用出来ない状況となっています。秋には復旧見込みなので、来年4月には十分に間に合うと思われれます。

被災地での開催意義

被災地では、瓦礫の撤去がいまだに数%しか進まず、ヘドロの乾燥により発生する粉じんや悪臭などで劣悪な環境になっています。震災で避難所生活を余儀なくされ、今後の生活再建への見通しが厳しく、ストレスの多い状況では、アルコールやタバコへの依存が促進する危険性があります。私の禁煙外来でも、再喫煙したり、禁煙治療を中断してしまう患者が出ています。

行政面では、震災への対応に手いっぱいとなり、通常業務に少なからず影響が出ています。震災前まで進められてきた喫煙対策事業に、震災後は予算も人手も回せない状態になることは容易に想像

できます。

今後の被災地における喫煙対策を後退させない大きな力とするためにも、2012年4月に日本禁煙学会学術総会を被災地仙台で開催することに期待しています。

結び - ご案内ふたたび

本年の10月から来年の4月への開催時期延期のために、皆様には大変御迷惑をおかけいたしました。幸い、市内の復興は少しずつですが目に見えてき

ております。東北新幹線は秋ごろ(9~11月)には平常ダイヤに戻る予定です。名取市にあって甚大な被害を受けた仙台空港ビルは、アクセス鉄道を含めて、復旧がさらにすすむ見込みです。市内の宿泊施設も秋ごろには、全館営業で再開できる見通しです。また、私たち地元の会員一同、心身をいち早く回復させ、皆様に安心してお迎えできる状況を整えたいと思っています。ぜひ多くの皆様にご参加頂き、私たちを支援して頂きたいと心から願っています。